



日本の「被災地課題」を解決するために



©2025 一般社団法人 社会課題解決支援協会





日本の被災地（現状・課題点）



- 被災自治体は、発災直後からパニックになります！

職員の電話対応は普段の10倍以上

1つ1つ関係先に連絡調整する作業が発生



おばあちゃんを探して欲しい



おむつを1ケース届けたい



幹部職員等が対応に忙殺される

職員の業務は普段の10倍以上



避難所の運営



家屋の被害調査



罹災証明書の発行

職員も被災しながら経験のない業務

跡見学園女子大学 鍵屋一 教授によると

自治体職員は自らも被災しながらやったことのない災害対応業務に追われ、本来の「対策」業務になかなか取り組めていなかった



対口支援

熊本の震災時：延べ5万3172人を派遣

7割の人員が避難所対応！

跡見学園女子大学 鍵屋一 教授によると

被災直後からの最優先は避難所対応。職員の7割が避難所対応に取られる。非常に厳しい状況に耐えられず、職員からだんだん表情がなくなっているのもつらかったという。



©2025 一般社団法人 社会課題解決支援協会



mitelink



「クラウド型被災者支援システム」について

● 内閣府「クラウド型被災者支援システム」の活用

自治体の補助システムとして、「命のカルテ」の一元化するmiteシステム、および地域連携を強化する仕組み「mite（ミテ）」を導入します。



※内閣府資料は別頁参照

©2025 一般社団法人 社会課題解決支援協会

mite

「避難行動要支援者」支援に関する課題解決策

(1) 災害時：安否確認・命に関わる情報が共有されるために

- 内閣府推奨の「クラウド型被災者支援システム」を導入した自治体システムの補助システム（miteシステム）を導入し、命を守る情報を一元化・共有のスムーズ化。

(2) 「個別避難計画」登録のために

- 介護事業所、登録事業者担当の方が対応します。
(本人同意取得の容易さ、訪問の手間削減)
- オンライン入力のため、個人情報を紛失することはありません。
(取り扱いやすさ)

(3) 地域連携および地域コミュニティの強化をするために

- 官民連携による「避難訓練計画」の策定
- 災害時：地域住民による「避難行動要支援者」の支援をお手伝いをさせていただきます。



©2025 一般社団法人 社会課題解決支援協会

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

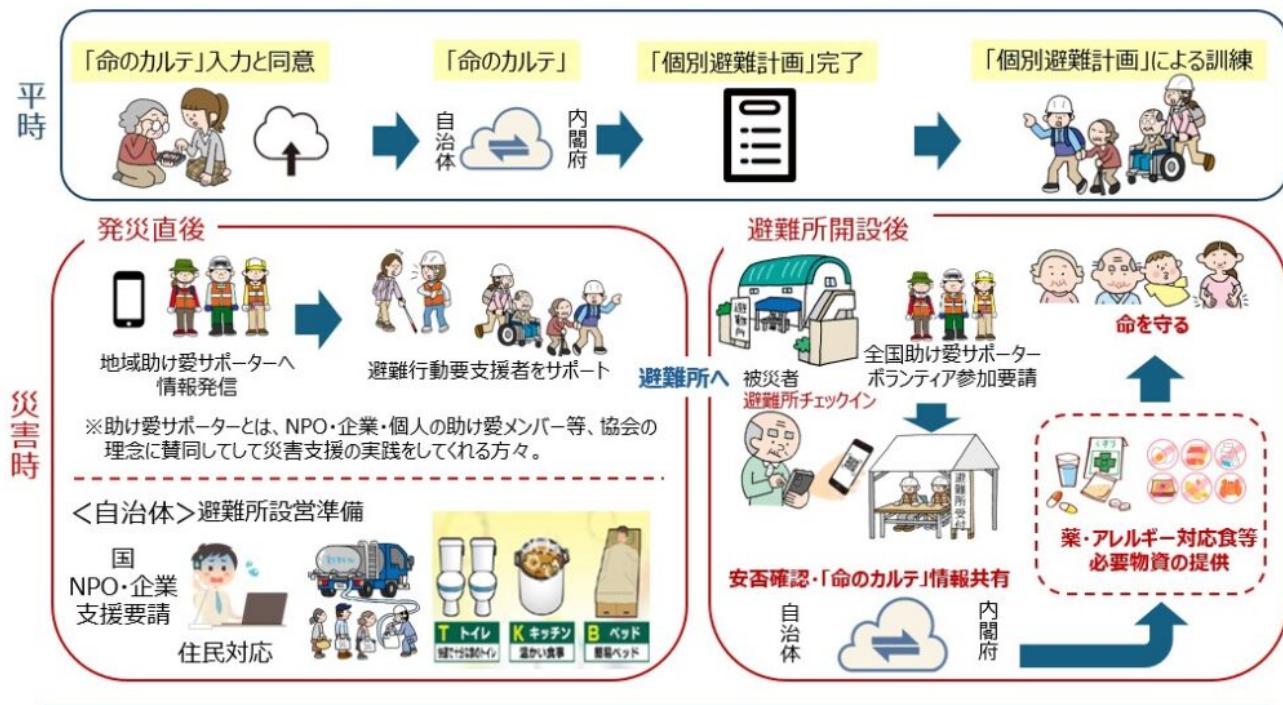
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

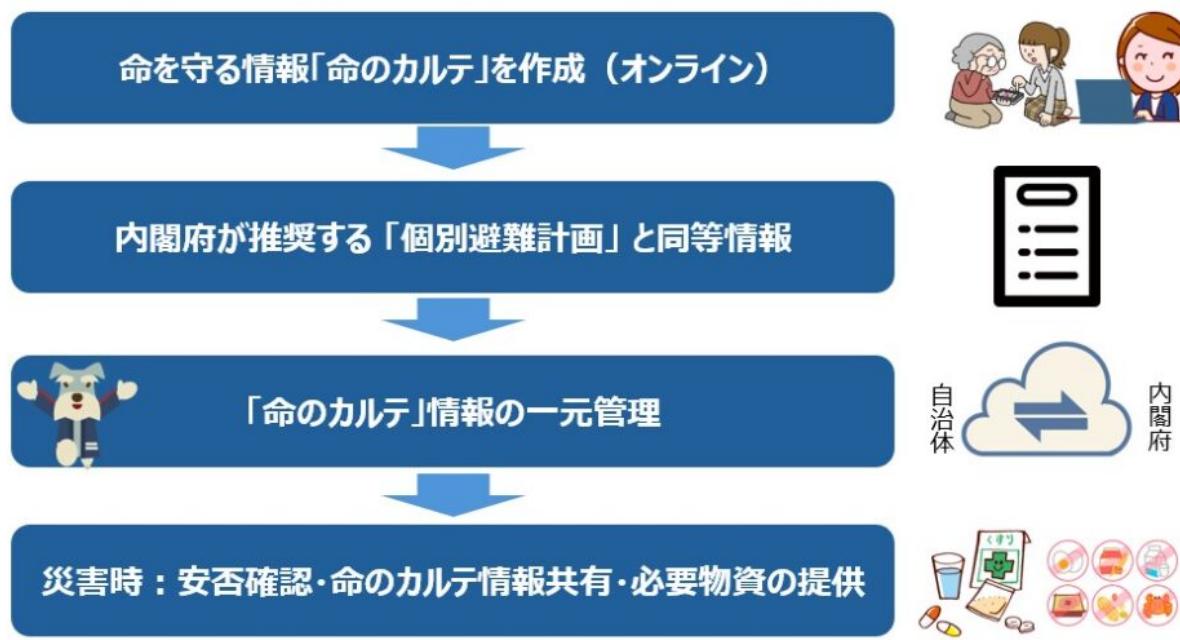
「命のカルテ」mite導入時（平時・災害時）



©2025 一般社団法人 社会課題解決支援協会

mite

「命のカルテ」 mite導入時



©2025 一般社団法人 社会課題解決支援協会

mite

A horizontal row of nine empty rectangular boxes, each with a black border, intended for children to draw or write in.

ver. 1.2